

# 特集 嵐山に幕府あり!?

歴史には「もし・・・であったならば」と考えたくなる場面が少なくありませんが、皆さんは嵐山町に幕府が開かれていたかもしれないということをご存知ですか。町に残る文化財とともにその真相にせまっています。



木曾義仲公像  
・富山県小矢部市提供

## 関東の特別な場所

### 武蔵国最有力

秩父一族の本拠地が嵐山町へ  
まず、平安から鎌倉時代において、嵐山町がどのような場所であったか説明します。

桓武天皇を祖とした武蔵国の名家、秩父氏は、重綱(4)のとき、武蔵国留守所惣検校職(辞令を受けても現地に赴任しない国司に代わる行政のトップ)を拝命し、本拠地を秩父から嵐山町に移しました。平沢にある白山神社境内から江戸時代に掘り出された「鑄銅経筒(1、2)」「重綱が一族の繁栄を願って經典を納めた筒」が残されていることが、移した証拠となると推測されます。

### なぜ嵐山町だったのか

秩父一族の多くは、陸路と水運路となる川の交差する場所に居所を占地していました(3)。嵐山町には鎌倉街道(8)があり、これと交差する都幾川は、秩父の山間を流れてきた急流が関東平野に向かって流れを緩やかにする変換点であり、水運の起点となります。交通の要衝という地勢上から本拠地を移したと想定できます。

## 運命を分けた大蔵合戦

### 秩父氏と源氏御曹司の結婚

重綱の子、重隆は秩父一族の家督を継ぎ、大蔵館を構え、娘小枝の夫に源義賢(源氏の御曹司)を迎え入れました。二人の間に生まれた子が「駒王丸」(後の木曾義仲)です。義仲は大字鎌形にある鎌形屋敷で出生したと言われ、鎌倉幕府を築いた源頼朝の従兄弟(いとこ)にあたります。

### 主導権争いに翻弄(大蔵合戦)

この頃、天皇家や摂関家(藤原家)では政治的な主導権を巡って勢力争い

が起こっていました。源氏や平氏も政争に巻き込まれ、親兄弟間でも敵対するような状況となっていました。

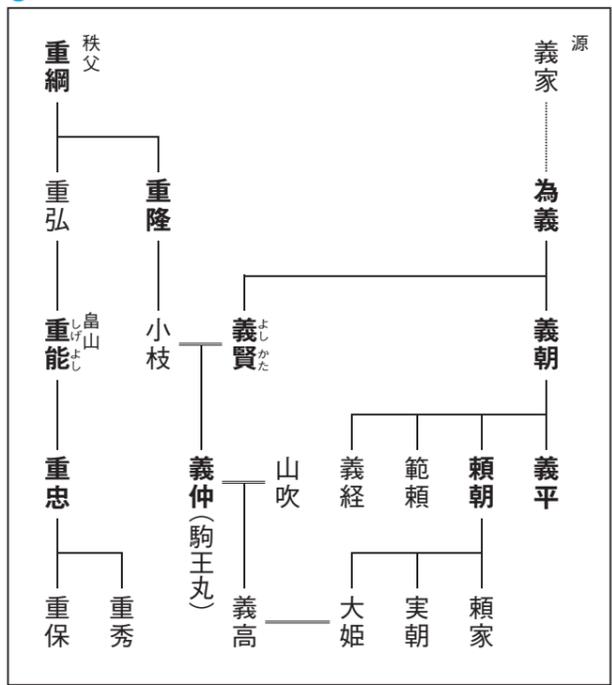
武蔵国の最有力者である秩父氏と義賢の同盟関係に危機感を抱いた兄義朝は、鎌倉にいた子、義平に命じていち早く大蔵の襲撃を命じました(大蔵合戦)。

義賢と重隆は討ち取られますが、「駒王丸」は、ひそかに命を助けられて、母小枝御前とともに信州木曾へと落ち延びることができました。後に木曾義仲となり、再び歴史上に大きな足跡を残すこととなります。



秩父一族は、武蔵国各地に分家を出し、ゆるやかに連携する強大な一大勢力を形成していきます。河越、豊島、江戸、葛西、河崎、稲毛などの地名は、秩父一族の新たな苗字の地でした。

## 源氏・秩父氏系図



### ↑その後の義仲公は↑

#### 朝日将軍へ

木曾義仲は、信濃国の木曾から大望を抱いて兵を起し、破竹の勢いで京へ攻め上り、將軍の地位を与えられ、朝日將軍と称されました。將軍と称された人物が、嵐山町の生まれであったということは、嵐山町民の誇りです。その人柄は

活躍したのは数年にすぎませんが、全国には700か所を超える義仲伝承があります。今井兼平ほかの義仲四天王や巴御前、山吹などとともに、純粹で爽やかな人間の魅力にあふれた義仲像が浮かび上がってきます。



1 「鑄銅経筒」(埼玉県指定文化財)  
旧平澤寺僧坊跡群 伝長者塚出土経筒

2 「銘文」  
敬白 勸進沙門實興 ※1  
奉施入如法経御筒一口  
右志者為自他法界平等利益也 ※2

久安四年 二月廿九日 戊辰 戊 當國大主散位 ※3  
戊辰 午 平朝臣茲繩方縁等 ※5  
藤原守道 (部) (重綱) ※6  
安了末恆  
藤原助員

- ※1 供養にかかわった僧の名
- ※2 仏法の利益を願う經典埋納の趣旨
- ※3 武蔵国留守所惣検校職のこと
- ※4 散位は律令に定めのない臨時の役職
- ※5 秩父氏の出自平氏の姓
- ※6 施主の名(重綱(茲繩)とその縁者) 経筒を鑄造した鑄物師の名(3名)



5 大蔵館跡 第8次調査空中写真



6 義仲産湯の清水 (鎌形八幡神社)



7 源義賢墓の五輪塔